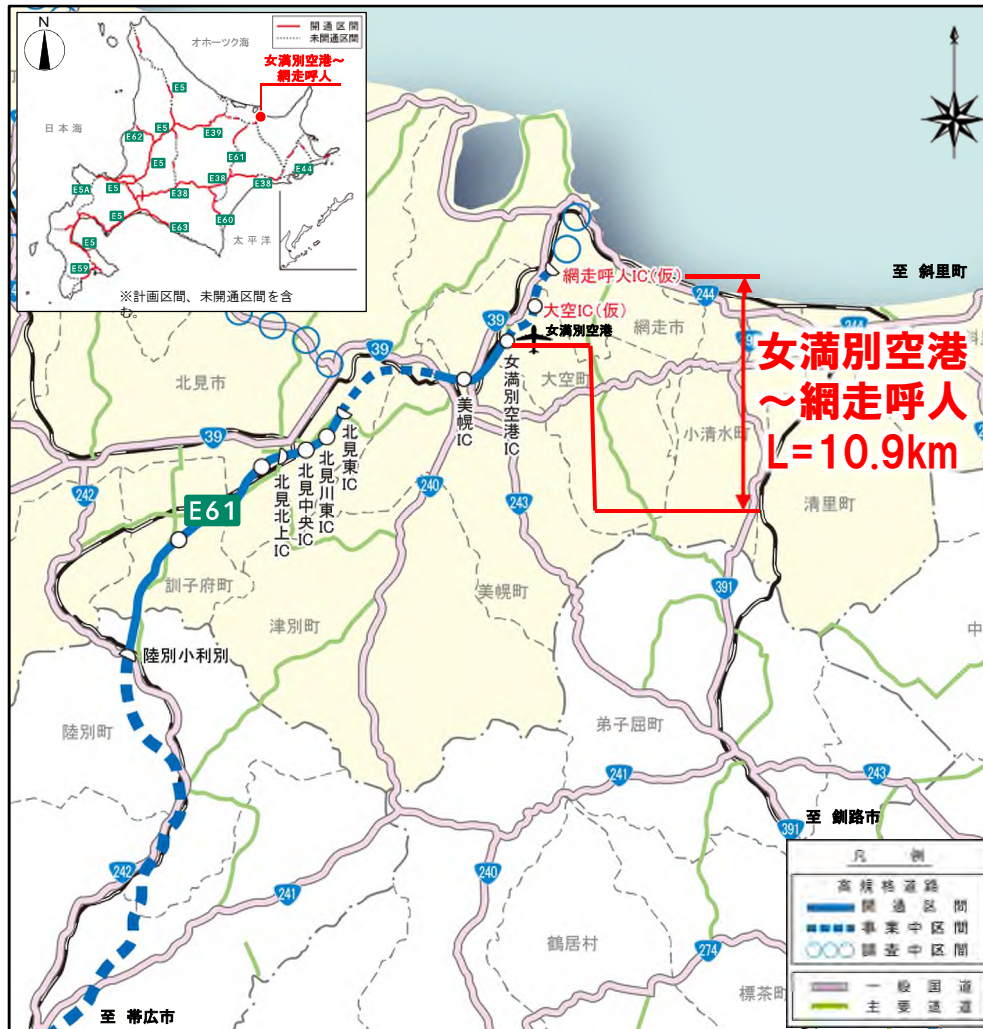
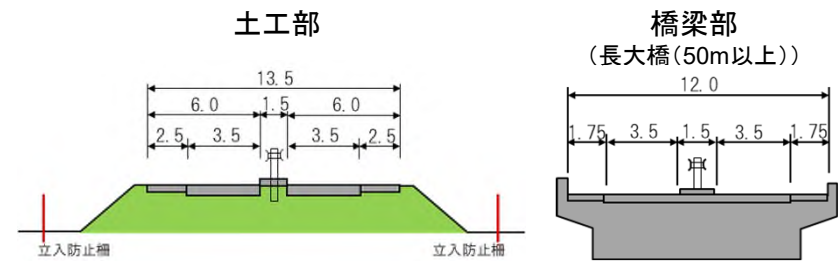


一般国道39号女満別空港網走道路(女満別空港～網走呼人)は、洪水浸水や地吹雪などの災害時においても機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築し、安全性や輸送効率の高い物流ネットワークを形成することによる地域産業の活性化、女満別空港から高次医療施設への速達性向上による救命救急医療活動支援等を目的とした延長10.9kmの高規格道路です。

■ 位置図



■ 定規図 (単位:m)



■ 計画の概要

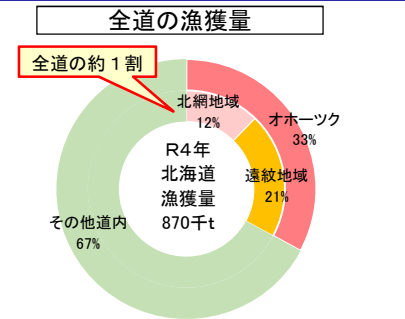
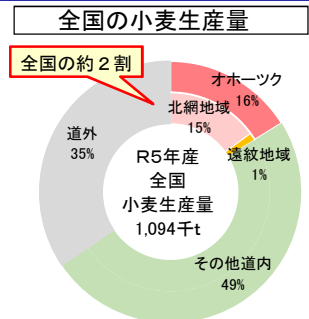
- ①起点 ……北海道網走郡大空町女満別中央
- 終点 ……北海道網走市字呼人
- ②計画延長……10.9km
- ③構造規格……1種3級
- ④設計速度……80km/h
- ⑤車線 ……2車線
- ⑥事業主体……北海道開発局

■ 経緯

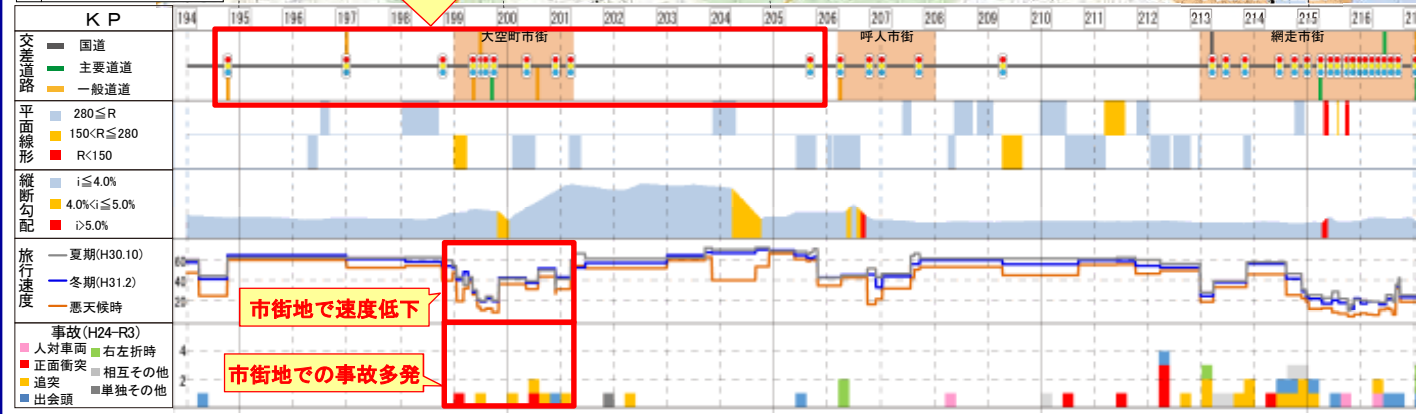
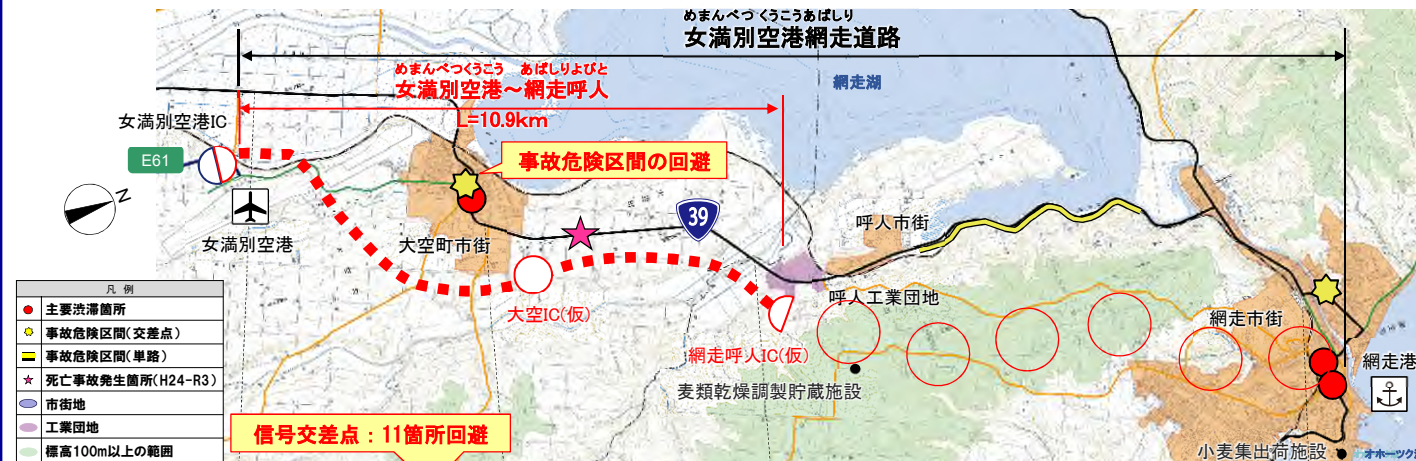
令和6年度 事業化

物流ルートの速達性・安全性の向上

- ・北網地域※は日本の食を支える生産空間であるが、物流ルートである国道39号の市街地では、信号交差点での速度低下や事故が多発しており、速達性・安全性の高い物流ルートの確保が課題
 - ・速達性、安全性の高い物流ネットワークを形成し、地域産業の活性化に貢献
- ※北見市、網走市、訓子府町、置戸町、大空町、美幌町、津別町、小清水町、清里町、斜里町



物流ルートの現道課題



資料：ETC2.0プローブデータ、事故マッチングデータ(H24～R3)

大型車の事故(H30.11.27)



網走港～女満別空港ICの所要時間

【現況】29分 →【整備後】26分
(3分短縮)

※R3道路・街路交通情勢調査の混雑時速度より
【現況】国道39号利用ルート
【整備後】国道39号・女満別空港網走道路(女満別空港～網走呼人)利用ルート(完成2車線区間は速度80km/hで算出)

信号交差点の回避

【現況】11箇所→【整備後】0箇所
(11箇所回避)

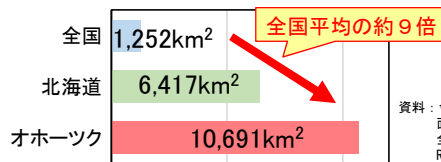
事故危険区間の回避

【現況】1箇所→【整備後】0箇所
(1箇所回避)

高次医療施設への速達性の向上

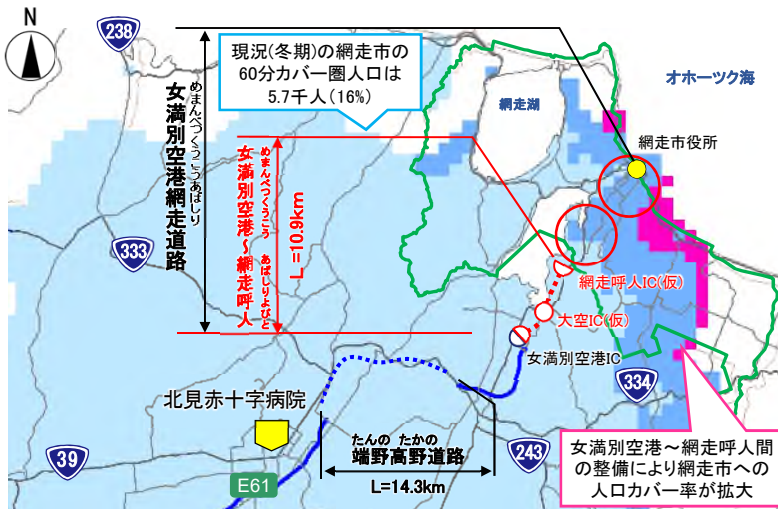
- ・オホーツク地域の第3次救急医療施設は北見市にしかなく、カバー面積は全国平均の約9倍
- ・特に、冬期は網走市の人口の約8割が、北見市へ心筋梗塞の救命効果が期待できる60分以内に到達できず、救急搬送の速達性確保が急務
- ・女満別空港網走道路(女満別空港～網走呼人)等の整備により救急搬送時間が短縮され、第3次救急医療施設カバー圏人口が増加し、地域医療サービスの向上に貢献

第3次救急医療施設カバー面積比較



資料：令和5年全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院)
全国救命救急センター設置状況 R5.4現在(日本救急医学会)

北見市第3次救急医療施設60分カバー圏(冬期)



凡例	
■ 第3次救急医療施設	— 開通区間
■ 60分カバー圏(冬期)(現況)	— 事業中区間
■ 60分カバー圏(冬期)(端野高野道路整備後)	— 対象区間
○ 未事業化区間	— 網走市
■ 60分カバー圏(冬期)(女満別空港～網走呼人整備後)	

北見市高次医療施設
網走市60分カバー圏人口(冬期)
【現況】5.7千人(16%)
→【整備後】35.0千人(98%)

※60分圏域のカバー人口(割合)北見赤十字病院からの60分時間圏域内となる網走市の人口(割合)人口/総人口【整備後】事業中含む端野高野道路+女満別空港網走道路(女満別空港～網走呼人)利用ルート

資料：冬期カバー圏はETC2.0プローブデータにより設定した冬期低減率を通常期速度に乗じた冬期速度により算出、人口はR2国勢調査より算出

災害時における信頼性の高い道路ネットワークの確保

- ・当該区間と並行する国道39号は網走川流域の洪水浸水想定区域や地吹雪発生区間が存在し、地吹雪による通行止めは過去10年間で110時間以上発生しており、災害発生時でも通行可能な道路機能の確保が課題
- ・災害時の代替性確保により、信頼性の高い道路ネットワークを確保

並行する国道39号の地吹雪による通行止め発生状況

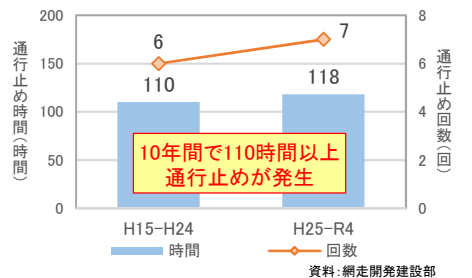


写真1: 洪水による大空市街地の浸水状況(女満別駅前町道(H28.8))



写真2: 地吹雪による視程障害状況(R4.2)



網走川洪水浸水想定区域と地吹雪発生区間

